

課題に応じた学校改善方を推進するための効果的な評価項目の開発

1 事業の実施報告

(1) 実践研究のねらい

- ア 各高等学校の特性を踏まえるとともに、各校の課題に応じた学校改善方を推進するための効果的な評価軸・評価項目を開発する。
- イ 学校評価における府教育委員会のコンサルテーション力を向上させ、学校改善に向けた指導と支援の一体化を図る。
- ウ 10校を研究校に指定し、学科等に関する特性を踏まえ、各校の課題に応じた学校評価の在り方について研究を行う。
- エ 研究に当たり、大学教授や弁護士等の専門家と指導主事からなる評価チーム（以下、「診断支援チーム」という。）を編成し、教育委員会が実施者となって学校評価やその結果に基づく学校改善のための具体的な支援を実践する。
- オ 研究校における効果的な支援を行うため、自己評価や学校関係者評価の実施状況を踏まえた評価体制づくりについて研究を行う。

(2) 実践研究の実施状況

ア 支援対象校の決定

今年度は学校支援を2つのタイプに分け、支援対象校を決定した。第1のタイプは初めて支援を行うタイプで、公募により診断支援チームによる診断を希望した学校に、「初任校長の学校経営支援」という観点から府教育委員会が数校を追加し7校を選定した。第2のタイプは2年連続で支援を行うタイプで、昨年度診断支援チームによる診断を受けた学校3校に対し、今年度はフォローアップとしてミドルリーダー育成の支援を行った。

イ 診断支援対象校への支援

(ア) 診断支援対象校への資料提供の依頼

診断支援対象校7校の現状把握のため、次のような資料の提供を依頼した。

- ・「学校教育自己診断」の集計結果・分析等の資料
- ・学校協議会での提言
- ・その他学校の現状の把握に有効な資料

(イ) 診断支援対象校の現状と課題の把握

7校の課題分析のため、指導主事が研究校を訪問し、校長・教頭・首席等によるSWOT分析等を実施した。SWOT分析の実施に当たっては、S・W・O・Tの4要素についてブレインストーミングを行い、「自校の強み・弱み」「外部環境にあるチャンス・脅威」などを整理することによって、課題を認識し、明らかになった課題解決に向けては、具体案を策定するとともに、実行策検討シート（ペイオフマトリクス）により、案の実現容易性などについて分析した。

(ウ) 診断支援チームによる学校訪問

学校の現状把握と課題分析を進めるため、大学教授や弁護士等による学校訪問を行い、校長の学校経営方針についてのヒアリングや授業参観等を行った。

<評価チーム（診断支援チーム）>

氏名	所属	専門領域
森田英嗣	大阪教育大学教授	教育工学
木原俊行	大阪教育大学教授	教育工学、教育学
神村早苗	大阪教育大学准教授	教育学
浅野良一	兵庫教育大学教授	基礎教育学
峯本耕治	長野総合法律事務所弁護士	法律
乾修	元府立学校事務部長	財務
府教育委員会指導主事 7名		

(エ) 評価の観点についての検討

「学習指導」「生徒指導」「学校運営」等、評価の観点を検討し、学校経営の専門家だけでなく、学校の課題に応じて財務の専門家と法務の専門家からも助言を得ながら診断を行った。

なお、平成22年改訂の「学校評価ガイドライン」に「第三者評価は学校とその設置者が実施者となり、学校運営に関する外部の専門家を中心とした評価者により、自己評価や学校関係者評価の実施状況も踏まえつつ、教育活動その他の学校運営の状況について、専門的視点から評価を行うものである。」と規定されたことから、本取組みは「第三者評価」的な位置付けを持ち得るものと考えている。

ウ フォローアップ対象校への支援

昨年度、診断支援チームによる提言を受けた10校の内、学校改善の核となる「ミドルリーダー」の育成に向けたプログラムを支援するため教育委員会に設置しているチーム（以下、「育成支援チーム」という。）の事業について応募した3校に対し、診断支援チーム事業のフォローアップとして、昨年度の提言書に示された具体的な課題の解決に向けた支援を実施した。

エ 府教育委員会としての府立学校支援体制の構築（指導と支援の一体化）

府教育委員会としては、校長・准校長のマネジメント力の強化に資するため、診断支援チームや育成支援チームによる支援を実施し、学校の課題の洗い出しとその解決に向けた支援を進めている。また、平成23年度からは全府立学校において「中期的目標」とそれを踏まえた当該年度の「重点目標」、「取組計画」、「評価指標」を明確にした「学校経営計画」を策定するよう「指導」を行い、PDCAサイクルによる学校経営を一層推進することとしている。

一方で、学校経営の改善に向けた予算面での「支援」として、「学校経営計画」の実現のために校長・准校長がその責任と権限において活用できる経費と、中期的な目標を具体化するための基盤整備に必要な経費等を活用し、これらの予算を活用して各学校のマネジメントの強化を促進することとしている。

オ 取組み実践の府内公立学校への啓発

学校評価活動への理解を深めるため研究フォーラムを開催し、府内小中学校も含めた公立学校における学校評価活動の優れた取組みについて成果と課題を共有した。

また、作業の効率化のため、成績処理、出欠管理や学校教育自己診断（学校教育活動が児童・生徒の実態や保護者・地域住民の学校教育に対するニーズ等に対応しているかどうかについて、学校自らが点検するためのアンケート）の効率的な集計・分析を可能にするアプリケーションをDVDに格納して全府立学校に配付した。

2 実践研究の成果

- 指導主事がファシリテーターとなって、校長・教頭・首席等を対象としたSWOT分析を実施することにより、自校の課題が明確になっただけでなく、今まで気づかなかった潜在的な大きな強みや外部の協力など、学校が自らの教育活動にとって追い風になる要素を認識できた。
- 学校が自ら意識化したことに加え、それぞれの学校の特色と課題に応じて各方面の専門家から診断・助言を得ることで、更に学校の課題と改善策が明確になった。詳細については、各校の提言書の章で確認されたい。

3 今後の取組予定

本年度の研究により得られた実践の結果をまとめた冊子を、府内の各市町村立小中学校・教育委員会、府立学校へ配付するとともに、府教育委員会のWebページで公表することで周知を図り、学校評価活動のさらなる充実に向けた啓発とする。

- 「学校評価・情報提供の充実・改善等のための実践研究」報告書
～高等学校及び特別支援学校の特性に配慮した学校評価の在り方に関する実践研究～

大阪府の取組み 診断支援提言書

《森田教授評価チーム》

- ・ 野崎高等学校
- ・ 富田林高等学校

《木原教授評価チーム》

- ・ 久米田高等学校
- ・ 豊島高等学校

《浅野教授評価チーム》

- ・ 旭高等学校
- ・ 東住吉高等学校
- ・ 布施高等学校

学校財務・法務の観点からの提言

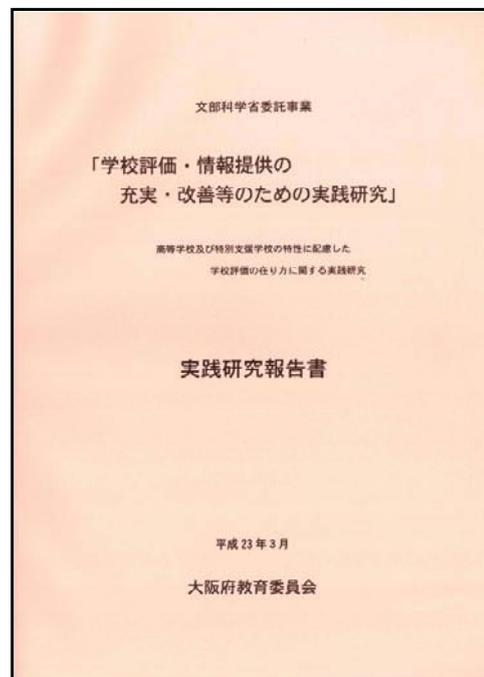
- ・ 学校財務に関する学校経営改善
- ・ 子どもの成長発達を保障するために

フォローアップ対象校への支援

- ・ 阪南高等学校
- ・ 河南高等学校
- ・ 堺工科高等学校

周知と啓発（学校協議会フォーラム）

- ・ 学校評価と学校協議会の充実に向けて
- ・ 学校協議会フォーラムアンケート結果
- ・ 学校協議会フォーラム開催要項



(参照) 大阪府 開かれた学校づくりに関すること

<http://www.pref.osaka.jp/kotogakko/hirakaretagakkou/index.html>